

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。会議で確認し、具体的なケアについて意見の統一を図っている。事業計画にも反映している。	理念は事務室や廊下に掲示してあり職員全員で共有している。職員は自分自身の言葉として理解し、支援の場面で実践している。地域ボランティアが多く訪れるなど、地域密着型サービスの社会的役割を認識し具体的に働きかけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛け、地域の方々と挨拶を交わしたり話をしたりしている。差し入れをいただいたり、様子を見に来てくださる方もいる。行きつけの理美容院に通い交流を図っている。保育園との交流も始めている。自治会に加入し区費を納めている。	区費の支払いをし、自治会の行事に参加している。地域の方々から野菜・果物などの差し入れがある。散歩や畑の仕事の時に近隣の方とふれあったり、詩吟・音楽療法のボランティアなどがホームを訪れている。近くの保育園児との交流も行われている。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生を受け入れを行なっている。防災訓練の折、入居者の状況を説明する等し、理解を促している。広報紙等を通し、地域に向けての活動は必要と感じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうようにしている。防災や地域交流、事業所内の段差の改修等サービスの向上に活かしている。	二ヶ月に1回定期的に行われている。2つの区からの役員の参加等、幅広い委員の存在で毎回積極的な意見・提案を頂き、ホーム全体で具体化につなげている。また、委員の方に行事への参加もしていただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の市町村担当者として、地域包括支援センターの職員に委託している。地域の高齢者福祉の状況等の情報交換をしている。運営の方法や対応に不安のある時等積極的に意見を求めるようにしている。	包括支援センターより入居受け入れの打診があったり、ホームの相談ごとなど包括支援センターや市の担当職員と連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修に参加したり、事業所内で高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修を行い職員の共有認識を図っている。	職員は身体拘束についての研修を交替で受けており理解している。玄関の鍵は昼間の時間帯はかけていない。具体的な事例を挙げ、職員同士話し合いを行っている。職員の連携を図りながら、見守りやマンツーマンでのケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加したり、事業所内で高齢者虐待防止法について研修を行い職員の共有認識を図っている。認知症の理解やその方の暮らし方の理解の不足が虐待に結びつきやすい事を理解し、理解に努めている。		

グループホーム川田の宿・椿棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や資料の配布で制度について学んでいる。成年後見の必要なケースに関しては管理者、計画作成担当者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明するようにしている。特に、入院時の対応や退所の要件、利用料金については詳しく説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付設置要綱を定め、契約時に文書で説明している。ご家族には、面会時に声を掛けたり、連絡票等で意見を聞く努力をしている。外部評価の家族アンケートの結果や出された意見等は会議で報告し、反映させるようにしている。	家族の方の面会時には声掛けするよう心がけ、家族の思いを聞く姿勢を常に保っている。苦情箱が設置されており、意見は職員会議で話しあい反映させるように取組んでいる。1ヶ月に1回、担当者や管理者によるお便りを家族に送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や個人面談時に意見を聞くようにし反映させている。また、日頃からコミュニケーションをとるよう心がけている。	管理者は会議以外でも個々の職員の意見を聞いたり、年末には個人面談をしている。意見や提案は会議で話し合い運営に反映している。職員はケアのこと、研修の件など自由に発言することができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因について気を配るようにしている。職員同士の人間関係について把握するように努めている。係活動等で役割をもってもらいやりがいにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行なわれる外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じて受講の計画を立てている。研修内容の報告の機会が必要と感じている。介護福祉士等の資格取得に対する支援もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の連絡会で情報交換を行なう、研修会に参加するなどしている。相互訪問等交流の機会ができればと思っている。		

グループホーム川田の宿・椿棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で生活状況の把握に努め、ご本人の不安や要望を受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や、サービスの利用状況、要望など聞くようにし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に状況を聞く中で、必要なサービスを進める等している。事前面接や入居前に事業所で過ごしていただく等徐々に関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを共有し、利用者から学ばせていただくことも多い。できることは協力していただきながら生活ができるよう心がけている。調理の相談や畑のこと等相談するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問や電話、連絡票で状況を報告している。入居後の生活に慣れるまで頻りに面会をお願いする等ケアにも協力していただいている。ご家族が遠方の方等、より積極的に情報の共有が必要と感じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容院に通い交流を深めている利用者がある。墓参り等に出掛ける、自宅を訪問する、近所の方が様子を見に来てくれる等の交流がある。	馴染みの理・美容院の利用が続けられている。職員が付き添いお墓参りに行ったり自宅に寄ったりする。地域ボランティアの会(ひまわりの会)の訪問が年間を通じてあり、入居者との馴染みの関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員は情報を共有し、調整するよう努めている。利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		

グループホーム川田の宿・椿棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方でも面会に行く、家族からの相談にのる等の対応をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦を参考にしたり、日々の関わりの中で把握に努めている。言葉だけでなく、表情や態度などからも読み取るようにしている。会議でも検討している。	入居時に生活暦の聞き取り調査が行われている。また、日々の関わりの中で新たにわかった生活暦を追加している。開設当初からの入居者が多いので表情・態度より判断するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネから情報を得て把握するようにしているが、まだ十分でない部分があると感じている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムの把握に努めている。関わりの中から不安や得意なこと等の把握に努めている。会議の中でも検討するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映するようにしているが不十分なものもあると感じている。会議、ミーティング等で職員の意見交換をするようにしている。より決めた細かいモニタリングが重要と感じている。	本人の思いや家族の意見を聞き反映させている。モニタリングを繰り返し、6ヶ月毎に介護計画の見直しをおこなっている。状態の変化がある時はその時点で見直しをしている。	職員は常に話し合いをもち状態を把握しているため、3ヶ月毎に見直しをし記録に残して頂くよう望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化はケース記録に記載し、職員間で情報の共有を図っている。ケース記録を基に介護計画の見直し、評価を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努めている。		

グループホーム川田の宿・椿棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員、民生委員、地区の相談役等が参加し、周辺の情報の共有や地域での豊かな暮らしに役立てている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医でも診療が継続できるよう家族と協力して受診介助をしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医で受診している。受診の際は家族と協力し介助をしている。家族が遠い方や都合のつかない時は職員が付き添いも行っている。訪問看護師が1週間に1回来訪しており適切な助言を頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行なってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを防ぐため医師と話し合いの機会を持ち、事業所内で対応可能な状態で早期に退院できるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携をとる際、ご家族には対応指針を示し説明している。ご家族には重度化等に対する意見を聞いているが、より頻回な対応が必要と感じている。	重度化対応・終末期ケア対応指針があり、契約時に家族に説明している。昨年ホームで看取りを経験し、その際話し合いを重ね終末期に向けた方針の共有化が図られた。職員は同じ布団に入り入居者の不安を取り除く努力などを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を全員が受講するようにしている。年に1回事業所内でも研修し、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と共に年2回避難訓練を行なっている。消防署の協力を得て、運営推進会議委員や区長、消防団にも参加いただいている。	近隣二地区と災害に関わる協定が結ばれている。運営推進会議に報告し、年2回消防署・消防団や地域の方の協力を得ながら通報訓練、避難訓練を行っている。避難時に使用する道路に亀裂があることを運営推進会議時に区からの出席者に報告したらすぐに直してくれた。	

グループホーム川田の宿・椿棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシーについて会議で検討し、言葉遣いや対応等を考える機会としている。さりげない対応ができるよう心がけている。さらに努力が必要と感じている。	長いお付き合いで言葉使いが慣れ合いになっていないか、排泄介護時などに大きな声を出していないか意識して気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が答えやすく選びやすい言葉掛けを心がけている。言葉では理解が難しい方には用紙に書く等し自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、できるだけその方のペースに沿って対応しているが、入浴・行事等職員の都合が優先している時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の着替えを自分で選んでいただき必要な時に手伝うようにしている。行きつけの理美容院でおしゃれを楽しむ方もある。一緒に外出し衣類を購入する方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛り付け、片付け、畑での収穫等、できる所は一緒に行うようにしている。全員で食卓を囲み、楽しい雰囲気で作られるようにしている。	入居者の出来る範囲で食事作りや片付けに参加している。皆の顔が見られるように食卓を全員一緒に囲み、会話をしながら時間をかけてゆっくり食事が出来ている。入居者と職員が同じものを頂き、全介助の方も同じテーブルで周りを見ながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の状態を確認し、食事や水分量の把握に努めている。食事量の少ない方には、好みの物を用意する等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には見守り、できない方には必要なケアを行なっているが、毎食後は実施できていない方もある。		

グループホーム川田の宿・椿棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、尿意の無い利用者にも時間をみて誘導している。できるだけトイレでできるよう支援している。トイレの場所を貼り紙で分かりやすくするようにしている。	排泄チェック表を使い時間を見ながらトイレに誘導している。排泄パターンを知ることで自立出来るよう支援している。入居者によってはポータブルを用意するなど個々の状態に応じ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が不穏等に大きく影響することは日常のケアの中から理解している。水分摂取を促す、散歩や運動で体を動かす等便秘の予防に努めている。朝食後のトイレ誘導で自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のタイミングで入浴を促している。希望のあった時、発汗等の時は希望に沿って対応している。入浴の時間については日中のみで夜間浴等の対応はできていない。	入浴は午後の休憩後から夕方にかけて行われており、お風呂の嫌いな方にはタイミングをとらえてお誘いしている。汗で気持ちの悪い方は希望入浴が出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えるようにしている。体調や、その時の様子でゆっくり休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状のファイルを用意し職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時はチェック表を利用し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと、できることはお願いするようにしている。畑、歌、縫い物等役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や誕生日等希望の場所に外出できるようにしている。本人の希望で墓参りや自宅の様子を見に行く等個人に合わせた対応をしている。ご家族と外出する、ボランティアの方と散歩に出る等、協力をいただいている。	天気の良い時は農道を散歩している。個々の希望や状態に合わせた外出となっている。季節毎に遠出をしたり外食を楽しんでいる。家族と外出する方もいる。	

グループホーム川田の宿・椿棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を自分で管理している方もある。事業所で管理している方でも外出の時など自分で支払っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は家族に出す支援をしている。希望に応じて電話や手紙を出せるよう支援している。電話の場所や使い方等、一人では難しいため支援が必要な状況である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方と作った作品を飾る等、季節を感じ、居心地よく過ごせる工夫をしている。テレビの音量等も注意している。	共有空間は広く、リビングの一隅にある畳の和室は寒くなると炬燵ができる。冷暖房が完備されている。廊下には木で出来ている椅子が幾つかあり、デッキで日光浴をたのしむ方もいる。入居者の手作り作品や掛け軸があり落ち着いた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチ、和室等を利用して思い思いに過ごせるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に自分の荷物が置かれていることで安心して生活できることを理解し、居室は使い慣れた物を持ってきていただき、居心地の良さに配慮している。	それぞれ家族と相談しながら本人本位の居室となっている。仏壇、テレビ、家族の写真、自分の作品等、入居者の生活暦が窺えるような居心地の良い環境づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の場所を分かりやすくする等、利用者の方の状態に合わせて環境整備をしている。		